

※目標値（H31）内の「延べ」は計画期間（5年間）の合計値

改善・悪化：改善○，維持△，悪化×，未実施-

達成度：順調A，要改善B，未実施-

総合戦略の具体的施策

①地域で暮らすためのしごとをつくる

(i)基本目標

江田島市生まれの若者や移住希望者の居住地などとして選択されるため，例え小規模であっても地域で暮らすための「仕事」づくりを推進します。

目標指標	基準値 (H26)	実績値			目標値 (H31)
		(H27)	(H28)	(H29)	
創業・起業の年間件数（件）	3	9	10	15	12
農・水産業の後継者・担い手の育成（人）	延べ 2	延べ 6	延べ 7	延べ 9	延べ 11

(iii)具体的施策・施策ごとの重要業績評価指標

■施策① 農林業の振興

指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
				実績	改善・ 悪化	達成度	
有害鳥獣による農作物年間被害額（千円）	22,585	20,563	20,975	19,847	○	A	20,000
＜成果と見直し＞ 有害鳥獣による農作物被害は依然として多く，特にイノシシによる被害が大半を占めており，市内全域に広がっているため，平成 29 年度から相談窓口として，イノシシ 110 番を設置して，対応している。イノシシ 110 番で被害防止の相談対応を行うとともに，地域の人々を対象に環境改善を中心とした総合的な被害対策の取組強化及び加害個体の効率的な捕獲について，啓発を行っている。 今後は，鳥獣被害対策の勉強会を開くなど，啓発活動を拡げていく。							
重要業績評価指標 (KPI) 農業の後継者・担い手の育成（人）	延べ 2	延べ 4	延べ 5	延べ 6	○	A	延べ 5 →延べ 8 (H29 変更)
【目標値変更理由（H29）】 平成 31 年度目標値（延べ 5）を達成したため，目標値を上方に変更する（延べ 8）。							
＜成果と見直し＞ 野菜（きゅうり）の研修生を 1 名受け入れ，新規就農者数は，順調に増えてきている。 担い手の育成・確保に向けた広報活動などに取り組むとともに，地域農業者及び農業委員会と連携して早期の農地確保による円滑な就農を図る。							
オリーブ栽培の面積（ha）	22.6	24.6	26.1	27.0	△	B	35.0
＜成果と見直し＞ 苗木計画本数 1,500 本に対して苗木申込本数 604 本であり，計画数値には達しなかった。耕作放棄地解消が目的であるオリーブ振興推進補助事業の市民への周知が足りず，十分に活用されなかったため，結果として苗木申込本数が少なかったことが原因と思われる。例年，広報 12 月号で市民に周知しているが，十分に補助制度を活用してもらうために，平成 30 年度からは，広報 9 月号で早めに周知し，耕作放棄地への植栽を促進する。							

■施策② 水産業の振興

	指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成度	
重要 業績 評価 指標 (KPI)	かきの大規模消費地への年間共同出荷量(t)	0	0	0	—	—	—	3
	鮮度の高いかきの生産・出荷体制の構築(%) (H29 指標変更)	0	0	0	0	—	—	100
	<p>【指標変更理由(H29)】 大規模消費地への年間共同出荷量については、選別作業などに係る作業に見合った評価が得られないとの生産者の意見もあり、取組を中止した。新たな指標として、鮮度の高いかきの生産・出荷体制の構築(%)を設定する。</p> <p>《成果と見直し》 鮮度の高いかきの品質を保つためには、より冷たい環境でかきを保存することができる海水氷製氷機の使用が有効であることから、海水氷製氷機の使用を促進することに特化することに着目した。そこで、本市や漁協などの関係機関で構成する江田島市産地協議会でアドバイザーを務める県に対し、海水氷製氷機の使用に係る研修資料の作成を依頼し、これが完成した。平成29年度の実績は、ここで終了したため、実績が0となった。 平成30年度は、かき業者を巡回訪問して研修会を開催しており、海水氷製氷機の使用を促進できるよう、積極的にかき業者に呼びかけていく。</p>							
	水産業の後継者・担い手の育成(人)	0	延べ2	延べ2	延べ2	△	A	延べ3
	<p>《成果と見直し》 平成29年度から新たに1名が国の研修制度を活用し、新規漁業研修生の受入れを行った。研修期間は2年間を予定しているため、平成31年度には、目標値である延べ3名を達成する予定である。 しかし、高齢化などにより後継者の減少が見込まれることから、更なる新規漁業研修生の受入れを行うとともに、後継者、担い手確保のため、水販協や青年部等の担い手グループの活動を支援していく。</p>							

■施策③ 商工業の振興

	指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成度	
	企業立地奨励制度の申請者数(人)	1	延べ2	延べ2	延べ2	△	B	延べ5
	《成果と見直し》 廃校のグラウンドなどへの企業誘致を目的として「しごとの場創出事業」公募型プロポーザルを行ったところ、提案を検討した企業はあったものの、応募は無く、企業立地奨励制度を適用できる事業者は、増加しなかった。 今後は、これまで以上に遊休施設の情報や江田島市の魅力を発信して、IT企業などのサテライトオフィス誘致も視野に入れて取り組んでいく。							
	商工業等振興資金補助金の年間申請件数(件)	29	20	23	22	△	B	39
重要 業績 評価 指標 (KPI)	《成果と見直し》 中小企業者を支援する視点から、補助金制度により、商工会の会員である中小企業者の運転資金と設備投資に対する円滑な借入に努めている。 今後は、補助率や上限額の見直しを検討する。							
	就職相談会の年間来場者数(人)	30	67	41	52	○	A	57
	無料職業紹介所相談件数(件) (H29指標追加)	—	—	417	699	○	A	540
	【指標追加理由(H29)】 単発的に開催される合同求人説明会の指標も必要であるが、島内で企業と求職者を結び付ける「無料職業紹介所」を指標として加え、支援を行いながら、人口減少・しごとの場の創出に努めたい。目標値は、平成28年度を基準として、各年10%の増加を見込み目標年の数値を540とした。							
	《成果と見直し》 平成29年度の合同求人説明会には21事業者が参加しており、参加企業の大半が満足しているとの回答を得ていることから、一定の成果が得られている。 また、社会福祉協議会の無料職業紹介所(平成28年4月開設)における、平成29年度の相談件数は、699件である。市内に紹介窓口ができたことによる利便性の向上や景気動向を反映して増加傾向が続いていることから、今後も紹介所事業を継続させるため、引き続き、市の支援を行いながら新規登録事業所の開拓や相談体制の充実などにより、企業と求職者の更なるマッチングに努める必要がある。							

②交流人口の増加を図り、江田島市との「縁」を有する人を増やす

(i)基本目標

来訪経験者などの増加を図り、江田島市に「縁」を有する人を増やすとともに、移住・定住を支援する体制の構築を図り、安心して暮らし続けることができる生活環境の整備を行います。

目標指標	基準値 (H26)	実績値			目標値 (H31)
		(H27)	(H28)	(H29)	
年間総観光客数（万人） ※市内外からの観光客の総数	54	54	54	63	69
定住促進策を利用した移住者数（人）	延べ 229	延べ 246	延べ 269	延べ 293	延べ 379

(iii)具体的施策・施策ごとの重要業績評価指標

■施策① 観光の振興

重要業績評価指標 (KPI)	指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・悪化	達成度	
重要業績評価指標 (KPI)	体験メニュー数（プログラム）	6	12	13	14	○	A	9→15 (H29 変更)
	【目標値変更理由（H29）】 体験メニュー数（プログラム）は、観光協会と協力して新規体験メニューを開発しており、平成31年度目標値（9）に達成したため、目標値を上方に変更する（15）。							
	〈成果と見直し〉 昨今は、「コト消費」と呼ばれるように観光も体験型に移行しており、引き続き、観光協会と連携しながら、本市の環境を生かした体験メニューの充実に取り組む。							

■施策② 都市基盤の整備

重要業績評価指標 (KPI)	指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・悪化	達成度	
重要業績評価指標 (KPI)	市道の整備延長（m） ※市道総延長 281km	単年 218	単年 403 延べ 403	単年 242 延べ 645	単年 244 延べ 889	○	A	延べ 1,037
	〈成果と見直し〉 平成29年度において、2箇所の道路整備を実施した。 引き続き、通学路などについて、毎年点検し、整備が進んでいない箇所については、計画に沿って整備を実施する。							
	橋梁の長寿命化更新数（橋） ※橋梁総数 252 橋	単年 2	単年 4 延べ 4	単年 1 延べ 5	単年 2 延べ 7	○	B	延べ 27
〈成果と見直し〉 今年度は、国の交付金の内示が少なく、計画どおりに実施できなかった。 今後も、重点事業として実施に取り組む。								

■施策③ 都市との交流・定住の促進

指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
				実績	改善・ 悪化	達成度	
体験型修学旅行等の受入人数(人)	単年 1,719	延べ 3,468	延べ 5,876	延べ 9,994	○	A	延べ 13,000

重要業績評価指標 (KPI)

＜成果と見直し＞

過去に受け入れた学校からの高い評価や各方面への営業活動により、リピーター校だけでなく、新規校も増加しており、受入校数、人数ともに増加している。しかしながら、民泊受入家庭の高齢化による受入辞退数が、新規登録家庭数を上回っている状況は改善されておらず、特定の家庭に負担がかかっている状況が続いている。

平成23年に8軒の民泊家庭からスタートし、平成26年度には約130軒まで増加したが、その後は約100軒の登録数で推移している。首都圏などの比較的大規模な学校を安定的に受け入れるためにも、約30軒の新規民泊家庭が必要となってくる。

近年では、若い子育て世代の家庭も徐々に増えつつあるが、受入初期からの家庭が高齢化により辞退される場合もあり、総数としては伸び悩んでいる状態である。

今後も引き続き、若い子育て世代だけでなく、新たに定年を迎え、比較的時間に余裕のある家庭をターゲットに、研修会の開催や広報など、根気強い活動により、受入家庭の裾野を拡げていく取組が必要である。



③子どもが生まれ、育つ江田島市づくりを進める

(i)基本目標

江田島市の教育や子育てなどの環境づくりを総合的に進めることにより、次代を担う世代の確保を図ります。

目標指標	基準値 (H26)	実績値			目標値 (H31)
		(H27)	(H28)	(H29)	
合計特殊出生率	1.47 H24 数値	-			現状より上昇
市民満足度調査の子育て支援サービスの充実の満足度 (%)	55.5	56.7	56.4	57.0	60

(iii)具体的施策・施策ごとの重要業績評価指標

■施策① 学校教育の充実

指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)	
				実績	改善・ 悪化	達成度		
広島県「基礎・基本」定着状況調査平均通過率3ポイント以上の教科の割合 (%)	57.1	0	85.7	71.4	×	B	85.7	
重要業績評価指標 (KPI)	《成果と見直し》 小・中学校において、全ての教科で県平均通過率を上回った。しかし、小学校国語及び中学校数学については、県平均通過率3ポイント以上には至らなかった。 今後も、「学びの変革」推進協議会を設置し、取組を充実させるなど、授業改善及び学力向上対策を今まで以上に推進する。							
	ふるさとへの愛着を実感した意識調査(中学校2年生)の割合 (%)	80.7	87.4	88.1	77.5	×	B	85
	《成果と見直し》 生活科、理科、社会、総合的な学習の時間などを通して、江田島が好きと実感できるような教育を推進してきたが、今回数値が下がっている。 授業内容について、教師の思いだけでなく、授業後にどのような実感を得たかという生徒の感想を反映させていくように助言するなど、取組内容を見直し、ふるさとへの愛着をより実感できるような教育を推進していく。							
	大柿高校の定員充足率 (%)	54.2	61.7	64.1	60.8	×	B	66.7
《成果と見直し》 定員120人に対して、生徒数は73名(60.8%)であり、目標値である80名(66.7%)を充足していない。 このことから、さらに事業内容を精査し、中高の教職員間の連携を図り、問題点などを洗い出し、定員充足率を目標値に近づける取組を行う。								

■施策② 子育て環境の充実

指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
				実績	改善・ 悪化	達成度	
一時預かり保育の年間利用者数(人)	778	699	610	—	—	—	1,000
就学前児童(3～5歳)に対する保育施設入園率(%) (4月1日現在) (H29 指標変更)	86.2	89.8	95.2	95.6	○	A	99.0
<p>【指標変更理由(H29)】 一時預かり保育の年間利用者数は、入園基準となる就労時間の緩和や一部の保育園を認定こども園とすることによって保育園入園基準が緩和された。その影響により、一時預かり保育から標準入園に移行されたため、適切な指標とならなくなったため。</p> <p>《成果と見直し》 就学前児童(3～5歳)に対する保育施設入園率(%)は、平成28年度と比較し増加している。主な理由は、就労要件の緩和(週4日、1日6時間以上から月48時間以上)や認定こども園における1号認定(幼稚園部分での預かり)により、入園しやすくなったため。 今後は、保育内容の充実を図り、教育・保育における満足度を高めていく。</p>							
未満児(0～2歳児)の入園率(%)	26.5	33.3	26.4	—	—	—	50
就学前児童(0～2歳)に対する保育施設入園率(%) (4月1日現在) (H29 指標変更)	26.7	28.1	33.3	33.3	△	A	35.0
<p>【指標変更理由(H29)】 上記の指標との文言を統一したこと及び指標の基準日を4月1日現在に統一したため。</p> <p>《成果と見直し》 育児休暇制度の普及などにより、共働き家庭が増加しており、0～2歳児の保育需要は、今後も増加することが予想される。保育施設の再編整備や保育士の確保により、受入体制を整えていく。</p>							

重要
業績
評価
指標
(KPI)

④市民満足度が高く、時代に即した「住み続けたいまち」をつくる

(i)基本目標

これまで暮らしてきた方や新たに移住してきた方が、「住み続けたいまち」と実感できる市民満足度が高いまちをつくるため、安心・快適に暮らせる地域の機能の充実を図ります。

目標指標	基準値 (H26)	実績値			目標値 (H31)
		(H27)	(H28)	(H29)	
市民満足度調査の全項目平均割合 (%)	54.6	55.1	55.2	55.5	60
市民アンケート調査による江田島市への愛着があると答えた割合 (%)	62.5 H25 調査	- ※5年に1回の調査のため			70

(iii) 具体的施策・施策ごとの重要業績評価指標

■施策① 生涯学習の充実

重要業績評価指標 (KPI)	指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・悪化	達成度	
重要業績評価指標 (KPI)	公民館類似施設の年間利用回数 (人/回)	3.29	3.47	3.60	3.42	×	B	3.6
	〈成果と見直し〉 新規の参加を促すべく新たな講座を企画するなどしたが、結果的に利用者は減少した。利用者のニーズ把握に努め、新規利用やリピーターの確保に向け、事業を進めていく。							
	図書館の利用登録者数人口比率 (%)	46	47	49	55	○	A	50 →56 (H30 変更)
	【目標値変更理由 (H30)】 平成 29 年度末で、平成 31 年度目標値 (50) を既に上回ったため、上方に変更する (56)。							
重要業績評価指標 (KPI)	〈成果と見直し〉 2館2室 (平成 29 年度から、沖美公民館図書室でもスタンプラリーを実施) の共同企画による「本でめぐる江田島しましまスタンプラリー」の事業や相互貸借制度が市民に浸透したこと、2館2室どこの図書館 (室) でも返還できる「借りやすく、返しやすいく」環境になっていることなどにより、上昇につながった。 今後も、年齢・世代別及び障害者など利用者に応じた図書館サービスの充実に取り組む。							

■施策② スポーツの振興

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成 度	
	社会体育施設の年間利用 回数（人/回）	3.53	3.91	3.86	3.82	×	B	3.8
重要 業績 評価 指標 (KPI)	《成果と見直し》 小学校施設を使う団体が増えたことや定期利用者の減少により、昨年度数値を下回った。 引き続き、既存スポーツ施設の管理運営体制の強化・見直しの検討と併せ、設備、備品な どの充実を図る。							
	スポーツ少年団（小学 生）の加入比率（%）	24	24	21	29	○	A	26
	《成果と見直し》 チーム数は1つ減ったが、加入者が増加した。 今後、新規団体の加入が見込みにくく、少子化の影響で加入比率の減少が避けられないた め、スポーツ少年団のPRと指導者の養成支援に取り組み、現団体の団員数の増加に努め る。							

■施策③ 保健・医療の充実

	指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)	
					実績	改善・ 悪化	達成度		
重要 業績 評価 指標 (KPI)	がん検診受診率 (%)	胃 10.9 肺 18.7 大腸 22.0 子宮頸がん 28.5 乳がん 28.2	胃 4.0 肺 7.5 大腸 9.2 子宮頸がん 15.7 乳がん 14.8	胃 8.0 肺 8.2 大腸 9.8 子宮頸がん 19.0 乳がん 17.5	胃 8.3 肺 8.7 大腸 10.0 子宮頸がん 21.0 乳がん 20.0 ※暫定値	○	A	胃 16.0 肺 24.0 大腸 24.0 子宮頸がん 25.0 乳がん 30.0	
	<p>《成果と見直し》</p> <p>40～69歳の国保資格への勧奨（勧奨通知の送付）により、暫定値ではあるが、全検診において受診率が上昇している。</p> <p>対象別勧奨方法と周知方法など、情報発信の見直しを図る必要がある。具体的には、ガイドブックを年1回、広報と一緒に配布して周知しているのに加え、未受診者に勧奨通知を行っている。この勧奨通知において、受診経験のある者にターゲットを絞り、目に留まりやすい通知書となるよう専門業者に委託することとした。</p>								
	メタボリックシンドローム該当者及び予備群該当者の割合 (%)	30.6	29.5	29.0	31.3	×	B	27.0	
	<p>《成果と見直し》</p> <p>メタボリックシンドローム該当者及び予備群該当者の割合が2.3%（前年度比）上昇しており、国（28.8%）、県（29.4%）に比べ該当者の割合が高くなっている。</p> <p>他の自治体や事業所なども参考にし、保健指導方法の改善を図る必要がある。具体的には、口頭で数値を示して説明しているのを改め、イメージしやすいようにフードモデルの模型を見せて適正な食事量を説明することとした。また、腹囲測定精度向上のため、内臓脂肪まで測定できる機器を導入することとした。</p>								
	3歳6か月児の虫歯の有病率 (%)	26.6	24.0	21.8	28.1	×	B	20.0	
<p>《成果と見直し》</p> <p>乳幼児からの虫歯予防の取組により下降していた有病率が6.3%（前年比）も上昇している。</p> <p>有病率上昇の原因の究明と早期対策に取り組む必要がある。特に、早期対策として、虫歯になってから保健指導していたものを、乳幼児健診において、歯が生える前から虫歯予防の指導を行うことに改めた。</p>									

■施策④ 高齢者福祉・介護の充実

指標名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
				実績	改善・ 悪化	達成度	
居宅サービスの年間受給者数(人)	10,659	10,788	11,030	11,097	○	A	12,790
<p>＜成果と見直し＞</p> <p>居宅サービスの年間受給者数，要介護認定者数（平成 28 年度末 2,069 人→平成 29 年度末 2,095 人）ともに増加している。</p> <p>介護サービスを希望する高齢者に対し，必要な居宅サービスの提供が図れていると考えられる。また，近年整備した小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護など，新たに在宅介護を支えるサービスが追加され，サービスも充実してきている。</p> <p>しかし，一方で，介護サービスを利用しない元気な高齢者を増やす必要もあるため，介護予防，重症化予防を行い，いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう，地域による介護予防の取組を支援するなど，地域共生社会の実現を目指す。</p>							
シルバー人材センターの会員数(人)	199	203	205	209	○	A	230
<p>＜成果と見直し＞</p> <p>当該センターによる新規会員加入の取組により，微増（4 人）した。</p> <p>市としては，会員数の維持・増加に向け，引き続き，当該センターの運営費などを補助するとともに，地域における要支援者に対する新たな事業の展開など，事業の充実化を支援していく。</p>							
住民主体の介護予防教室数(教室)	0	27	52	57	○	A	20 →70 (H29 変更) →75 (H30 変更)
<p>【目標値変更理由（H29）】</p> <p>平成 28 年度末で，箇所数は 52 教室となり，平成 31 年度目標値（20）を既に大きく上回ったので，目標値を上方に変更する（70）。</p>							
<p>【目標値変更理由（H30）】</p> <p>平成 29 年度に策定した「高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画」において，平成 31 年度の目標値を 75 か所としているため，整合をとる（70→75）。</p>							
<p>＜成果と見直し＞</p> <p>平成 27 年 9 月から開始した住民主体の通いの場（地域介護予防活動支援事業）は，箇所数が 49，参加率が 7.5%（高齢者数に対する参加者数の割合）となり，事業開始後 1 年で先行実施する市町を抜き，県内トップとなった。</p> <p>引き続き，社会参加による介護予防を推進するため，住民主体の介護予防活動の場の立ち上げや継続支援を続ける。</p>							

■施策⑤ 障害者福祉の充実

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成度	
重要 業績 評価 指標 (KPI)	障害者等の年間相談支援者数（人）	障害者 193 障害児 24	障害者 267 障害児 29	障害者 309 障害児 34	障害者 340 障害児 41	○	A	障害者 300 障害児 40
	《成果と見直し》 障害福祉について、相談者に積極的に相談支援事業所を紹介している。また、広報誌にも掲載し、広く普及を図った。							
	障害者就労施設等の市からの 年間物品等調達件数（件）	1	1	1	3	○	A	5
	《成果と見直し》 市内の障害者就労施設などにおいて、調達可能メニューをまとめ、利用の検討ができるようパンフレットを作成している。							

■施策⑥ 社会福祉の充実

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成度	
重要 業績 評価 指標 (KPI)	高齢者等に対する見守り支援活 動地区（地区）	12	12	13	13	△	B	17
	《成果と見直し》 平成 29 年度においては、活動地区を増やすことができなかった。地区ごとに様々な課題を抱えており、見守り支援だけに特化できていない部分がある。特定の地区での取組は一定の成果をあげつつも、全市的な広がりになっていないのが現状である。 地区の様々な課題を解決していく過程で、見守り支援をその中のひとつの課題と位置付け、他の課題と関連付けることにより、社会福祉協議会などと連携を密にし、引き続き、取組地区を拡大させることとする。							

■施策⑦ 公衆衛生の確保

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成度	
重要 業績 評価 指標 (KPI)	ゴミの総排出量(t)	10,098	9,504	8,994	8,812	○	B	8,513
	＜成果と見直し＞ 総排出量が減少した中で、刈草などは増加したものの、家庭系のゴミ量が減少するなど、減量化の効果はみられるが、事業系一般廃棄物の減量化を進める必要がある。各種補助制度の活用により、引き続き、ゴミの減量化を図る。							
	ゴミのリサイクル率(%)	6.8	7.3	8.0	7.3	×	B	7.7
	＜成果と見直し＞ 平成 29 年度に大型店舗が積極的な古紙回収を行ったことにより、資源ゴミの回収量が減少した。 本市においても、更なる資源ゴミの回収を進めるため、引き続き、ホームページや広報によるゴミの出し方の周知及び処理施設での資源化の徹底により、リサイクル率の向上に努める。							

■施策⑧ 自然環境の保全

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成度	
重要 業績 評価 指標 (KPI)	海ゴミの年間清掃活動(件)	13	16	78	92	○	A	20→90 (H29 変更)
	【目標値変更理由(H29)】 地域環境保全対策費補助金を活用した、海岸漂着物等清掃業務を実施したことで、平成 31 年度目標値(20)を大きく上回ったため、目標値を上方に変更する(90)。							
	＜成果と見直し＞ シルバー人材センターに海岸漂着物等清掃業務を委託するとともに、ボランティアが活動しやすい場を提供するため、ゴミ袋の配布、ゴミ回収車両の出動などを行うことにより、市内海岸の環境保全に努めている。 今後も、積極的に清掃活動に取り組む。また、海ゴミの減量化のため、市民向けにホームページや広報で呼びかけるほか、事業者を訪問して説明するなどの取組を行うこととする。							
	合併浄化槽の設置台数(台)	780	811	853	902	○	A	975
＜成果と見直し＞ 平成 29 年度の設置台数(49 台)は、平成 28 年度(42 台)より 7 基増となり、単年度目標台数 39 台増に比べ 10 台上回った。 今後も、平成 31 年度の目標値を達成するよう、チラシ、ホームページ及び広報を通じた補助金制度の周知により、設置促進を図る。								

■施策⑨ 大規模災害時の危機管理

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成 度	
重要 業績 評価 指標 (KPI)	地域防災リーダーの育成（人）	50	98	145	176	○	A	246
	《成果と見直し》 防災リーダー育成研修会の実施により、計画的な育成を図ることができた。 引き続き、防災リーダーの増員に向けた継続的な取組を実施する。							
	防災資機材の整備団体（団体）	5	7	11	15	○	A	17
	《成果と見直し》 計画どおり整備することができた。 引き続き、整備を進めていく。							

■施策⑩ 総合的な消防体制の充実・強化

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成 度	
重要 業績 評価 指標 (KPI)	予防救急の普及啓発活動（件）	0	延べ 20	延べ 35	延べ 71	○	B	延べ 225
	《成果と見直し》 目標値を初年度 25 件，以降年間 50 件とし，平成 29 年度から目標を達成するため，消防署が実施している自治会や事業所などを対象とした地域指導時においても，積極的に予防救急の普及啓発活動を行うよう方針転換した。 今後も，救急件数の抑制につながる取組として，継続して事業を進めていく。							
	人口 1 万人あたりの高齢者に 関係する年間出火率（件）	5.93	5.11	4.46	3.33	○	A	5
	《成果と見直し》 平成 29 年は，高齢者に関係する火災が 8 件あった（総火災件数 19 件）。 前年より減少することができたのは，直接火災予防を呼びかけられる住宅防火訪問や，毎年繰り返し行う，地域指導の効果が表れたものと思われる。 今後も，出火率の減少が継続できるよう，高齢者宅防火訪問や地域指導を実施する。							

■施策⑪ 暮らしの安全確保

重要業績評価指標	指標名	現状値(H26)	実績(H27)	実績(H28)	H29			目標値(H31)
					実績	改善・悪化	達成度	
重要業績評価指標(KPI)	子ども見守りグループの育成(グループ)	4	2	3	—	—	—	6
	特殊詐欺被害額(千円)	120,000	25,460	15,900	196	○	A	6,000
	【指標変更理由(H29)】 子ども見守り活動は、現在、活動しているグループを啓発活動などで活性化させることを取組としているが、本市の現状で、より重点を置かなければならない防犯対策は、高齢者などを対象とした特殊詐欺被害防止であるため、特殊詐欺被害額の減少を新指標とし、被害防止のための普及啓発活動を行う。							
	＜成果と見直し＞ 江田島警察署や江田島市防犯連合会と連携した啓発活動により、被害額が減少した。引き続き、防犯関係機関・団体と連携した啓発活動を行うことで、被害額の減少を図る。							
	消費者被害防止等の年間啓発活動(回)	5	5	8	8	△	A	7→8 (H30変更)
【目標値変更理由(H30)】 各町の民生委員に対する出前講座(年4回)と広報紙による啓発活動(年4回)が定着したため、平成31年度目標値(7)を上方に変更する(8)。								
＜成果と見直し＞ 昨年度と同様に出前講座と広報による啓発活動を実施した。また、全国消費生活情報ネットワークシステムを活用して、被害情報と対応方法を入手し、消費トラブルに対応するなど、被害の未然防止と救済を行った。 現在の啓発活動を維持し、被害の防止に努める。								

■施策⑫ 都市基盤の整備

重要業績評価指標	指標名	現状値(H26)	実績(H27)	実績(H28)	H29			目標値(H31)
					実績	改善・悪化	達成度	
重要業績評価指標(KPI)	法定外公共物(河川・水路)の改修補助件数(件)	単年 15	単年 16 延べ 16	単年 10 延べ 26	単年 10 延べ 36	△	B	延べ 75
	＜成果と見直し＞ 平成29年度は、10件の成果があった。 今後、受益者負担による公平性の観点から、制度に課題がないか検証を行いながら、引き続き、当該補助事業の執行に取り組んでいく。							

■施策⑬ 生活基盤の整備

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成 度	
	市営住宅の改修戸数（戸）	単年 10	延べ 15	延べ 20	延べ 30	○	A	延べ 42
重要 業績 評価 指標 (KPI)	《成果と見直し》 計画どおり改修を実施することができた。 今後も、計画どおり事業を進めていく。							
	インターネットの加入率（％）	35.7	41.2	42.1	43.2	△	A	44.6
	《成果と見直し》 順調に上昇している。 引き続き、加入率の上昇に向けた啓発に取り組む。 ※ 現在は、他業者が光回線を販売できるようになったため、市全体の加入率の把握が困難になっている。上記数値は、NTTに直接申し込んで加入した件数で、実際は、これよりも多いと考えられる。							

■施策⑭ 生活交通の確保

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29			目標値 (H31)
					実績	改善・ 悪化	達成 度	
	航路利用者の前年比減少率（％）	△4.2	△4.3	△2.8	△3.5	×	B	△3.5
重要 業績 評価 指標 (KPI)	《成果と見直し》 目標値は達成したものの、前年比で0.7%減少率の拡大となった。 引き続き、利用促進に向けた啓発や観光との連携などの取組を実施することで、目標値達成を目指す。							
	路線バスの年間利用者数（万人）	70	48	48	47	×	B	70
	《成果と見直し》 人口減少などの影響により、利用者数の改善にまでは至っていないが、これまで公共交通マップの作成やバスロケーションシステムの導入など、利用環境の改善を図ってきている。 今後は、利便性の向上（路線再編、ICカード、運賃区間制導入など）に向けた取組を進める。							

■施策⑮ コミュニティの振興

	指 標 名	現状値 (H26)	実績 (H27)	実績 (H28)	H29		目標値 (H31)	
					実績	改善・ 悪化		達成度
重要 業績 評価 指標 (KPI)	まちづくり協議会の設置数（協議会）	8	9	14	18	○	A	14→19 (H29 変更)
	【目標値変更理由（H29）】 平成 31 年度目標値（14）を達成したため、目標値を上方に変更する（19）。							
	＜成果と見直し＞ 新たに 4 協議会が設置され、地域運営組織の基盤づくりが進展した。 今後は、まちづくり協議会未設置地域への働きかけを継続し、組織づくりや活動の充実による地域の活性化を図る。							
	地域提案型活動支援補助金の申請数（件）	単年 3	延べ 12	延べ 21	延べ 35	○	A	延べ 39
＜成果と見直し＞ 申請数は 14 に増えたが、内容が重複した企画があった。しかし、新しい企画も増えており、制度が浸透しつつある。 引き続き、制度の周知に努め、地域活動の掘起しや活動意欲の向上を促し、地域住民の自主的な活動の後押しができるよう事業を進める。								